

第159回くらしの植物苑観察会 2012年6月23日(土)

-くらしの中に息づく植物-

天野 誠(千葉県立中央博物館 主任上席研究員)

くらしの植物苑の有用植物

現在でも人々のくらしには、植物の存在が欠かせません。衣食住に限っても、その多くを植物に依存しています。食物としては、カロリーで考えると穀物、栄養で考えると野菜や植物油、嗜好品としては、砂糖や香辛料など枚挙に暇がありません。衣類も、綿や麻など植物の天然素材に限らず、動物の天然繊維も元を正せば植物由来です。最近こそ、鉄筋コンクリートの建物が増えましたが、内装を含めれば植物素材を除くことはできないでしょう。

くらしの植物苑では、化学合成物質(プラスチックが代表)から生活用品ができる前に、人々が利用していた有用植物が数多く植栽されています。その中には、すでに現在では役割を終えて、使われなくなったものもあります。およそ50年以前のくらしに照らして、その有用性を解説いたします。

生活必需品以外にも、心を潤すものとしての植物があります。江戸時代に多くの植物が観賞用として、品種改良されました。その高度な育種技術は、当時の世界水準に到達していました。庶民も、観賞用植物を鉢植えとして楽しみました。また、花を愛でる様々な施設も作られました。くらしの植物苑内の日本独自の観賞用植物についても解説いたします。

.....
次回予告 第160回くらしの植物苑観察会 2012年7月28日(土)

「縄文時代の栽培植物と農耕」 山田 康弘(国立歴史民俗博物館 考古研究系)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要